民主化の裏に“抑圧の顔”　岡山日日新聞 1992.06.19

4（岡山日日）92.6.19

# 民主化の裏に“抑圧の顔”

## 「3つの中国」時代

## 安易な陛下訪中に釘

岡山県政経懇話会

東京外語大教授　中嶋嶺雄氏

社団法人岡山県政経懇話会（会員組織、会長・野津喬岡山日日新聞社社長）の第三百四十三回例会が十八日、岡山市本町のフジビル新館四階ホールで開かれ、東京外国語大学教授の中嶋嶺雄氏が「最近の中国情勢と日本」と題して講演。その中で中嶋氏は「民主化が進んだとはいえ、裏にはあらゆる政治批判、言論を抑圧する顔もまだ残っている」ことを忘れてはならない。

「最近の中国情勢と日本」と題して講演する中嶋氏

慎重な行動をとらないと日本は国際的に孤立しかねない」と警鐘を鳴らした。

初めに中嶋氏は、来世紀初頭には人口が二十億人に達するであろう中国が、世界平和のカギを握っていると指摘。そのうえで政治情勢に触れ、最高実力者・鄧小平氏も「改革開放政策を打ち出すのは、そうしないと旧ソ連邦のように体制維持できなくなるという危機意識を持っているため」との見方を示した。

さらに、北京の中国共産党本部は「反鄧小平」の保守派で固められるなど、「鄧小平は晩年の毛沢東によく似ている」と分析。「革命第一世代が一線から退く時期が来ており、近く政治情勢にかなりの変動がありうる」と予測した。

次に経済について「中国は『和平演変（旧ソ連、東欧の崩壊のこと）』は何とか防いでいるが、香港、台湾からの『南風』（自由経済の影響）は絶対に防げない」と「三つの中国」の時代の到来を示唆。

改革開放で豊かになったと伝えられる中国は、国民一人当たりのGNPは三百五十米ドルに過ぎないのに対し、香港は言うに及ばず、二十年前には中国と大差なかった台湾が間もなく一万米ドル。外貨準備高では世界一の九百億米ドルと急成長中で、貿易総額は台湾千四百億米ドルに対し香港二千億米ドル、中国千三百億ドルと三つの中国の経済面でのきっ抗ぶりを説明した。

さらに、香港の影響は広東省へ、台湾は福建省へと中国的世界が相互浸透的に拡大しており「南風は赤い中国を必ず白くする。これからは三つの中国を広い視野で見比べていく時代」と強調した。

最後に天皇陛下の訪中について「日本は西側の一員であることをはっきりさせるのが大前提」と安易な訪中に釘を刺した。また、実現した場合には「外交の穴埋めにはせず、アジアの風通しをよくするためにも人、物ともはるかに交流の深い台湾にも行く機会が持てるような日中関係を築く必要がある」との考えを述べた。